

恐怖！！
名物キチおばさん
ハラモドキ

この町に潜む
怪物

一人ずつ消されていく



フルカラー漫画

うちの学校には「原先生」という
名前のおばさん先生がいる。



原先生はいつもダサイ服を着ていて
不潔感があり、大きな丸メガネをか
けている。

そしてこの町には「ハラモドキ」
という、いわゆる名物おばさんが
いる。いつも同じ服を着て、町内
をにやにやしながら徘徊している
かなりやばいおばさんだ。



大きな丸メガネや不衛生な雰囲気
が「原先生」と似ていることから
誰かが言い出した「ハラモドキ」
という呼び名が定着した。

「ハラモドキは5秒以上見て
はいけない」と言われている。
ハラモドキを見て笑っていた
子が、翌日から学校に来なくな
ったらしい。
このうわさが本当か嘘かは分
からないが、ハラモドキはお
ばさんにしては背が高く、僕
たちよりも体が大きい。



そのため、直接ちよっかいを
出すことはなく、遠くからバ
レないようにならうだけだ
った。

ある日

東公園の裏から出たところに
さし、なんか変な廃屋あるよね？

ぼけ～

あし、あるね！
なんか気味が悪いから
ちゃんと見たことは無
いけど。

明日、
あの廃屋に行ってみない？

えー！大丈夫なのかな？
不法侵入っていう犯罪じゃないの？

ぼ。

いやいや、人が住んでなけれ
ば不法侵入じゃないだろ！

キィ

そうなの？

たぶん。てか、人がいないならバレ
ないし、通報されることもないし！

うーん

それは、そうだね。

じゃあ決まり！せっかくだ
からヒロムも誘っとくわ！

どど

わかった！

じゃあ明日の昼の1時に東
公園集合な！

明日は土曜日で、特に用事も
無かったため、僕はタクヤの
提案に乗ることにした。



あの廃墟は俺も気になってたんだよ！

だって楽しみだからさ！

タクヤ、ヒロム、もう来てたのか！早いな



おっすー

ザッ



そんなものより、金目のもの探そうぜ！

ゴゴゴ

エロ本とかあるかな？

ドアないじゃん



えー、不気味なこと言わないでよ

そうなんだけど、なんか最悪住めそうというか、住んでそうというか。



そうなの？割れたガラス散らばってるし、泥だらけだよ？

俺は前に、別の廃屋に入ってたことがあるけど、そこと比べたら全然綺麗だな



きったねー！

...



誰か住んでる？

そう！

アセ

アセ

だからもしかしたら・・・

奥の部屋にさ、毛布とか鍋とかがあったんだけど、その周りは埃とかあんま無くて綺麗だったんだ！



ん？

やばい、やばいやばい！

ダダダ



そうだなあつ、ちよつと待てよ



いやどっちにしろ怖いよ！早く出よう！

まあ普通にホームレスだろうな。こういう廃屋はホームレスにとつてはちよつどいいだろう。



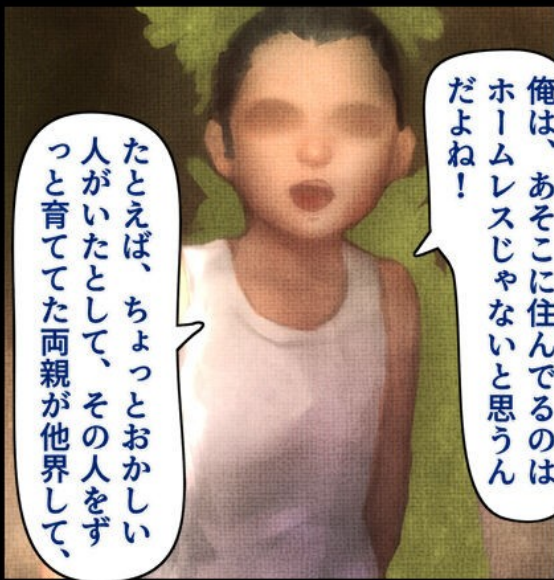
よしつ、じゃあ僕も！

本当は怖くてすぐに出たかったけど、怖がってないアピールをしたくて、僕も名前を書いた。



へへつ、せっかくだから記念に。

ズズッ



俺は、あそこに住んでるのはホームレスじゃないと思うんだよね!



あっハラモドキだ。



逆に、自分以外の家族が全員亡くなって、心を病んでおかしくなった人とかもありそうじゃない?

そのおかしい人が独りで暮らし始めたけど、生活力がなさすぎて、あんな感じにボロボロな家になったとかさ。

ありそー!

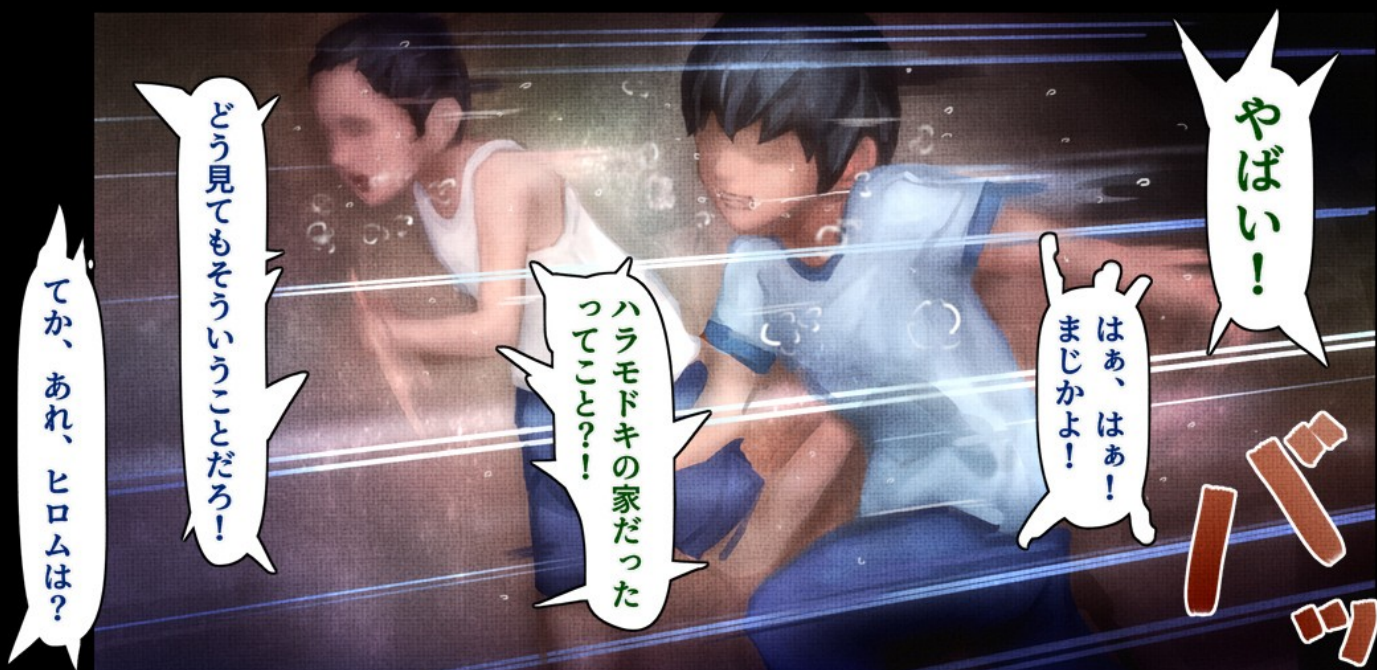


ちょっと待てよ、あの先って...

背たかつ。

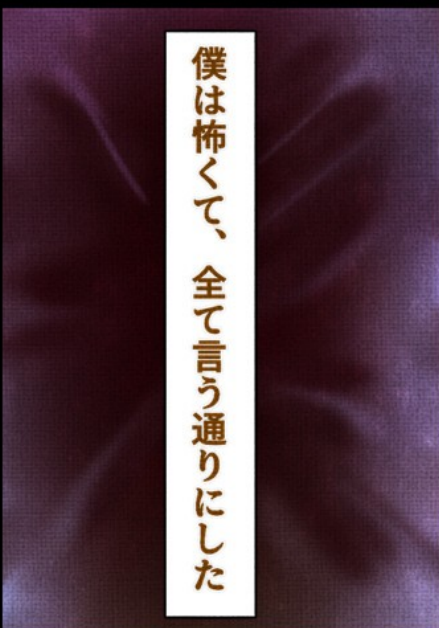
...

数分後



怖くて逃げるのに必死で、ヒロムが付いてきていけないことに気づいたのは、住宅街に入ってから数百メートル逃げた後だった。







すっ

そうよね。



はい好きです。

むに

おっぱい、好き？

おっぱい・・・。



んふ。

ふにふに

ズイ

男の子はおっぱいすきよね。よかったわ。



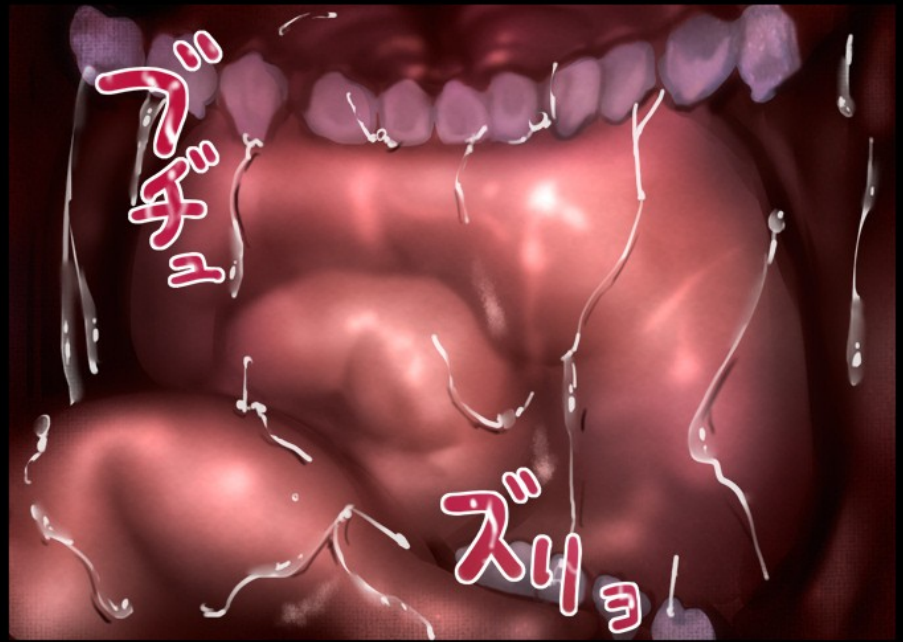
ゴゴ

お、おっきい。

ゴゴゴ

びびび

むち





かわいいちんちん♡

うっ

くにくゅ



ああんっちんちんっ

まぐゅ



おっぱいもぐもぐしてっ
いいのよっ

おいしい？

おっ、おいひいれす...

♡

♡

もぎゅ

しゅこ

しゅこ

しゅこ

もぎゅ

じゅる

ずし

ビクン





ちんちん汁っていうのは、さっき手でにぎにぎされてたときに出そうになったあれのことだ!早く出さないと死んでしまう!



おばさんまんまんに
びゅっびゅしちやうのお?♡

はっ♡

はっ

はっ

あんっ!でるの?
出ちやうのお?♡



むに

ちんちん汁だすよ!
だすからちよつと待ってよ!



出てる出てるっ!♡

びく

どっ



びゅる
びゅる
びゅる

出てりゅうう!♡

んおっ!♡

びく

は

は

うああ!

びく

ぎゅむ



確かなのはハラモドキが本当に狂っている
ということと、僕の体力がもう限界に近い
ということだ。

何時間経ったんだろう。何回あの感覚が
やってきたのだろう。もう覚えてない。

体液と唾液と汗のにおいが充満する薄暗い廃屋の
中で、このおぞましい行為はいつまでも続いた。



パン

ちんぽお!

パン

はあっ

はあっ!

ちんぽお!

パン

パン

んんああああん!!!

ぴく

ムチ

ぴく

ぴく

ド

グ

もっとちようだああい!

もっと!!
もっと!!

精子ちゃんきたあああん!!!

パン

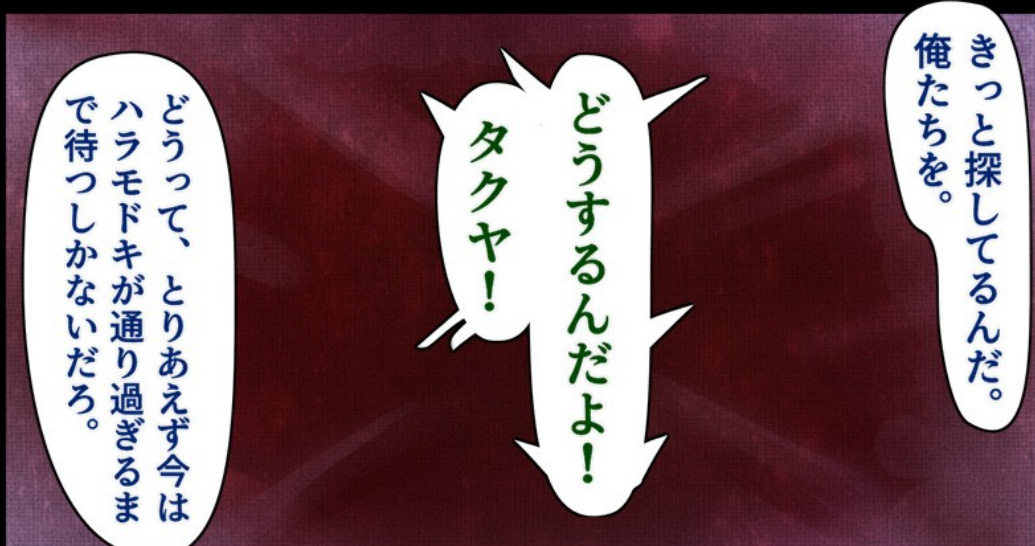


下校中

月曜日、ヒロムは登校していなかった。間違いなくハラモドキが関係していると思っただけ、タクヤはなぜかヒロムの話をしてこなかったから、僕もなんとなくヒロムのは話は話さなかった。



道路の向こう側で、ハラモドキが道行く人の顔をひとりひとり覗き込みながら徘徊していた。



その日の夜

ずっと隠れて登校するのいやだし、なんとかしなきゃな。

こっちから謝りにいけば、多分許してくれるだろう。向こうは大人だし。

居ても立っても居られなくなった。俺は元々、思ったらすぐ行動するタイプだ。

えー、やだよー。夜だし、明日でいいじゃん！

いやまあ、そうだけどさ！知ってるだろ？俺の性格。

知ってるけど、それは付き合えないよ。

とりあえず今日は無し！

じゃあまたね！

ちっ、あいつ

ツー ツー

さすがに1人で行くのは怖いし、明日にするか。

そう思い一度は寝転がったが、やはりハラモドキが頭から離れず、気づいたら家の外へ駆け出していた。俺はそういう性格なんだ。



夜だからより一層不気味に見えるが、廃屋の奥の方に光が見える。

やっぱり住んでるんだ。

こんばんわ!
こんな時間に失礼します!

ザッ

誰かいらっしやいますか!

待っていると、ゆっくりと奥のほうからハラモドキが現れた。

ギイ

また来たのね。

えっ? あっ! そうです!

...

そのことを謝りにきました!

バツ

この前の土曜日に、あなたの家に勝手に入りました!

カケルくん?

え? いえ

ゴゴ

タクヤくん?

そ、そうです。

さあ、入って。

ゴゴ

怖かったが、思ったより普通にやりとりができた安心感と、こちらが謝っている側ということで、ある程度向こうの要求には従うべきだと思いい廃屋に入った。



人前でパンツを脱ぐのはすごく恥ずかしいが、これで許してもらえ
るならと思いい、いう通りにした。

そうよ。早く。もぞぞ

ぬぎ



許してほしいの？

はい！
そのために
来ました！

そう。
じゃあパンツを脱ぎなさい。

パンツを、ですか。

ニヤ



えっ！

なにやってるんですか！

ぬちゅ
れる



はあ

ドキドキ

あん♡

はあ

はあ

おちんぼ、おちんぼ♡

ブル

ブル



ぞくぞくと変な感じがする。
腰に力が入らず、立ち上が
れない！

おいしい！

若ちんぽおいひい！

ブチュ

かふ

プチュ

ぎゅ

この人、やばい！



お仕置きよ

ビクッ

ビクッ

ああそうか。俺は確かに悪いことをして、それのお仕置きを受けているんだった。

なんなんですか、いったい...



はま

ぐぼっ

ドロ〜

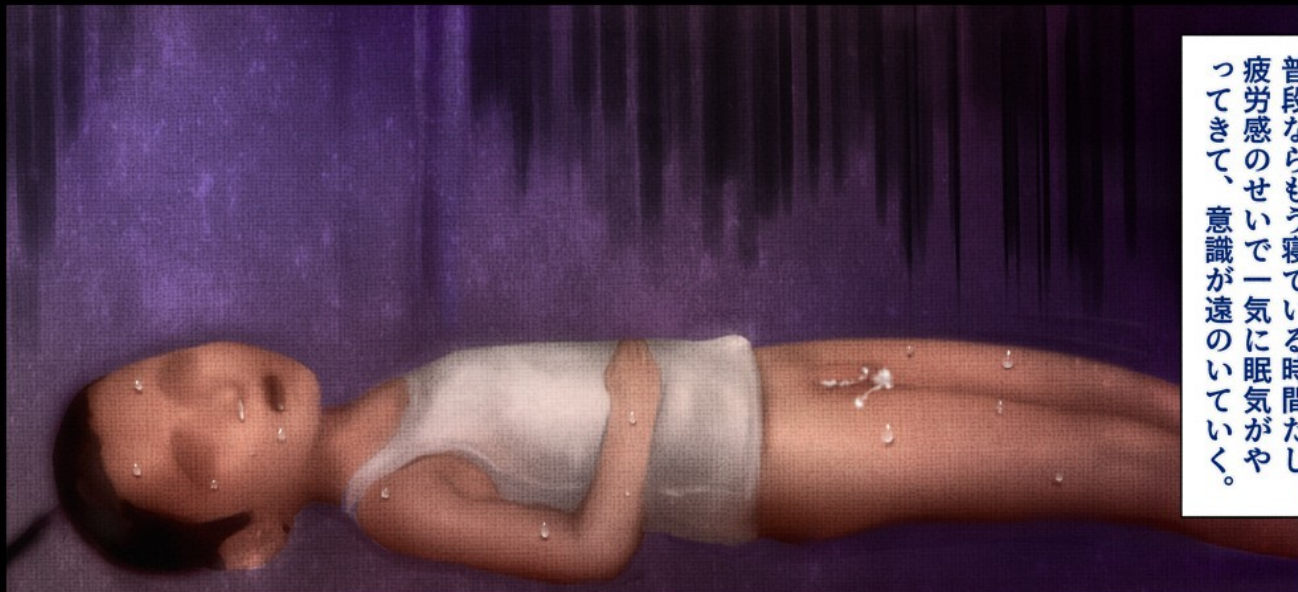
ポッ

喉にひっかかっているわぁ♡

んーっ♡

はぁ

ねばねばしてっ♡



普段ならもう寝ている時間だし、疲労感のせいで一気に眠気がやってきて、意識が遠のいていく。

どれくらい眠ったのだろう。数時間、数十分いや、たったの数分だけかもしれない。

...

息苦しさ、得体のしれない臭いで目が覚めた。



ぬるぬるして
気持ち悪い



あぁっ!

こんな若い子のかわいいお顔で
おまた擦るのぎもちいい!♡

おっぱいの中でおちんちんぴくぴく
してるっ
かわいいいいい!♡



かば

は、はい。

いいえって言ったから
どんな目に合うかわ
からない

ねば



ねえ、わたしのまんまんに
ちんちん入れたいわよ
ね？ ね？♡

んっ♡

くる



はい

むぢ

もしかして、こんなおばさん
の子宮に種付けしたいの？



ネチョ

はい。

そしてお汁をいっぱい
びゅーびゅーしたいの
よね？♡

とりあえずはいはいい言っておこう



バツ

ゴゴ

ゴゴ

ゴ

きゃああああー♡

こんなかわいい子が私に種付け
したいなんてっ！♡

なんてことっ！♡

なんてことっ！♡

・・・え？

妊娠するまで、合体したままっ♡

いいわね?♡

はぁ

はぁ

ええ...

むぎむぎ

いやなの?

いえ

よかったああ!♡

むぎむぎ

がし





さあ口をあけて

もぎゅ

くちゅ



元気な精子作れないわ♡

お腹減ったわよね？
ご飯食べて栄養付けないと！♡

・・・？

あーん



まっ、まさか！

気持ち悪い！
すぐ気持ち悪いけど
食べないと死んじゃう
かもしれない！

でろ〜

くちゅ



あらあら♡
慌てて飲み込むから

ゴッ



げほっ、おええっ

はー♡

はー♡

くふ



数日後

タクヤが学校に来なくなった。
絶対ハラモドキが関係している
はずだ。

親や学校の先生に全てを
打ち明けて相談しようと
思ったが、そのたびにハ
ラモドキの顔が浮かんで、
ハラモドキの怒りを買う
ようなことはしたくない
と思った。

怖かったんだ。

僕はそれから、もう東公園には
一切近づかないようにした。



静かだし、風も気持ちいい。

なかなかいいところだな。

先輩から面白い話を聞いた。隣町の「廃屋」と「ハラモドキ」の話だ。先輩は十年前、友達と3人で廃屋に入り、その後先輩以外の2人は行方不明になった。さすがに警察とかが黙ってないだろうし、子供のころの話だ。多少話を盛ってるだろうとは思ったけど、たまたまこの近くに來る機会があったので、例の公園に來ていた。



ありがとう

!!

しるっ



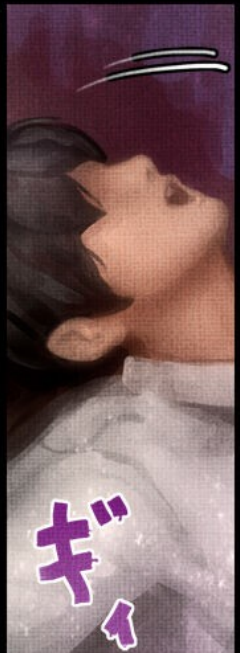
あつ、すまない！もうタバコ消すよ

==



けほっ、けほっ！

バツ



ギィ

他人の空似ってやつか。不思議なこともあるもんだ。

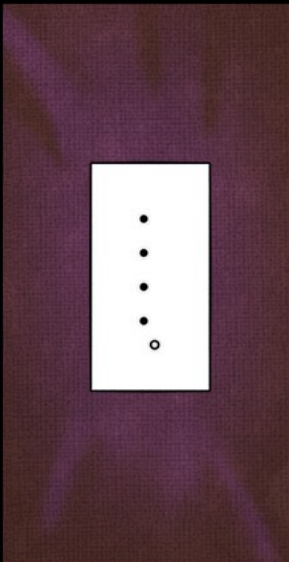
十歳くらいの頃の俺とよく似ている。



そうかい。

ダッ

でも、僕もう向こうで遊んでくるから、気にしないでいいよ。





ええ、だから問題なの。

ぬっ

むち



どうなってる!

一体何なんだ...!

久しぶりね
カケルくん。

ガキ

違う!カケルじゃない!
カケルは俺の先輩だ!
先輩に話を聞いただけなんだ!



あなたに友達なんていなかった

むち

はあ?いきなり何の話をして
るんだ?

最初にあなたを捕まえたときに
名前を聞いたら「ヒロム」と答
えたわ。

嘘をついているとは思えな
かった。けどあなたが家
に入って落書きをしたこと
は間違いなかった。

だからあなたを家に連れて
行って、お仕置きしたの。



そして何日か後の夜にま
たあなたが来た。そして名
前を聞いて確信したわ。

あなたが解離性同一性障害の
子だって。

...っ!



そして私は「ヒロムくん」
がいなくなつた話を「タク
ヤくん」に聞いたとき、こ
う思ったの...。

もわ

常に精力を奪われ続けている
せいか、単純な栄養失調か、
両方かもしれないが四肢に力
が入らない。

そして排便はお互いにつながつ
たまま済ませていて、長らく風
呂にも入っておらず、立ち込め
る異臭に嗅覚がやられて脳も正
常に機能していない。



このままだと死んでし
まうかもしれない！

いやだ！

死にたくない！

パン

パン

パン



ダ
ニ
ッ



はあっ

はあっ

んあっ

はー

言ったでしょ?

あなたが消えるまで
ずっとよ

こ、こんな生活、いつまで続け
るつもりだ!

ユ
サ
ッ

ブ
ル
ッ

ユ
サ
ッ

ぎ
ゅ

ビ
ッ

ビ
ッ

ひ
く
ん

はー

う
う
っ
!

う
お
お
お
っ
!

9年前

僕は友達を2人失った。

「ヒロム」と「タクヤ」

どうしても我慢できなくなって、同じクラスの子に2人のことを聞いてみると、

「そんな奴はいない」
「お前はいつも一人で遊んでいた」と言っていた。

僕は怖くなって学校へ行かなくなった。

ぎゅ

もう少しであれから1年経つ。そろそろはつきりさせないといけない。

すべてはあの「ハラモドキ」が知っているはずだ。

こんにちはわ!

誰かいますか!

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ



えっなんで

なんでだっけ・・・

タプ

タプ

ぼてっ

!



ギシッ

おなか大きい!



あなたの子よ

にちゃ



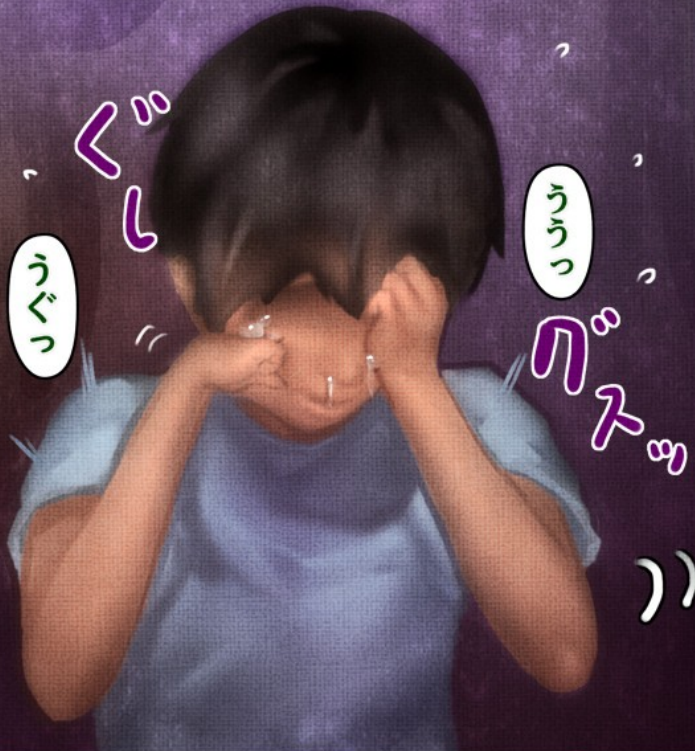
あああっ!

フルッ

フル

あっ・・・

思い出したのね。



本当は友達がいなかったことを知ったからか、それとも「友達が消えた」ことを理解したからか、涙が止まらない。

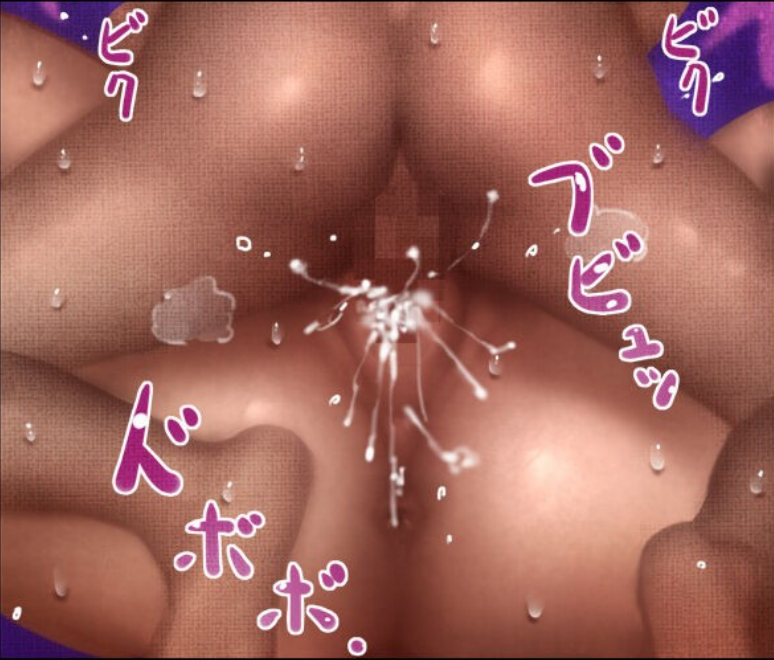
ハラモドキはゆっくりと抱きしめてくれた。



そして、悲しさや孤独感と同時に、もう一つふつふつと湧き上がる強い衝動があった。



ハラモドキの肌の温かさや柔らかさを思い出したのだ。







また会いたいよ。

びびっ

ええ、やだよ



いいえ

「あなた」はもうここに来てはいけないわ

たぶ



...

だけど、困ったときは私のところに連れてきて。

どうしようよ??

かし

体の主人を奪われて、生活に支障が出るようになったら「友達」を私のところに来るように、上手く誘導して



そうしたら

また私が消してあげるから。

ニチャ